

フィリピン視察報告

(8月28日～31日マニラ、9月1日～9月4日セブ)

天内(徳山高専)、原(宇部高専)

【目的】

中四国コンソーシアムの事業として広島商船が実施している語学研修プログラムの視察、及び宇部・徳山の学生・教職員語学研修・異文化体験のための廉価な交流事業提携先の開拓を目的としてフィリピンの高等教育機関及び企業訪問調査を実施した。シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド等と比較すると約半額という廉価で同様の研修を実施することが可能なのが魅力である。

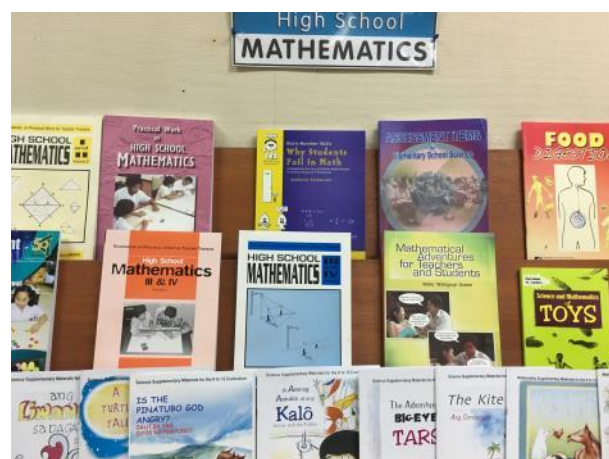
約30年前、成清(広島商船)が大学卒業後、JICAプログラムでUniversity of Philippine(UP:フィリピン大学)のNational Institute for Science and Mathematics Education(NISMED)の設立に携わったコネクションで、広島商船は2000年頃からフィリピン・マニラにおける語学研修プログラムを開始し、これが現在、中四国コンソーシアムの事業としてフィリピンにおける唯一のプログラムとなっている。

【視察報告】

<マニラ> 8月28日～31日

① UP・NISMEDは理数系教員のための高等教育機関で、理数系科目の英語による教授法などを先生の卵やスキルを上げたい教師に提供しているフィリピンでは最もレベルが高い高等教育機関である。教授内容はレベルが高く、かなりの英語力がなければ参加しても無駄だと思われる。数学等の英語教材の開発もしており、印刷所もあり教科書を出版することが可能である。所長をはじめ職員は日本人以上に時間管理ができ、会議の進行もスムーズであり、本質を理解し対応いただいた。我々の学生のレベルでは、NISMEDやUPの授業にはついていけないであろう、という結論から、「高校からはじめてもよいか？」と提案した。まずはUPとMOUがないとできないと言われたため、International Affaires Officeを紹介していただき訪問した。成清の今までの実績からNITとのMOUを進めることはまずできるだろうと返事をいただいた。さらに付属高校の校長を紹介していただき、学内の見学を行った。生徒たちの挨拶、態度、英語力、どれをとってもレベルは高く、ほぼ全員が最新機種スマホを持っていたことから富裕層の師弟が多いということも感じられた。学生から笑顔で挨拶さ

れていた校長は非常に前向きで温厚である。残念ながら9月から新任の校長が赴任することによって一抹の不安は残されるが、UPであれば次の校長も人格者なのではないかと予測される。寮についてはJICAが創ったNISMEDの寮があり、2人部屋2000ペソ弱1人1泊2000円程度で宿泊でき、朝、昼はカフェテリアが使用できる。夜は外食になるが、UPキャンパス周辺に多くの飲食店があるので特に困ることはないということである。ケソン市はマニラ市のような歓楽街はなく、怪しい店も少ないので、UPの中で寮生活するならば、治安の面でも安心である。UPのInternational Affairs OfficeからはNITとのMOU締結の許可をいただいているので気が変わらぬうちに一刻も早くMOUを結ぶのが良いと思われる。



②SMCL（セント・マイケルカレッジオブラグーナ）は、マニラから車で1時間ほど出た校外の街にある小規模のカレッジである。マニラと違い、田舎で街も広々として治安も良いと思われる。学内にホテル学科の研修施設としてのホテルがあり、数名、もしくは教員はそこに泊まることもできる。基本的にはキャンパスから徒歩15分程度のホテルに泊まることとなる。徒歩圏だが万が一危険とみなされれば車で送迎してもらうことも可能であろう。学生

が非常に素朴で礼儀正しく、高校の化学の授業を見学したが、冷房のない教室で、熱心に授業に集中している様子が伺えた。教授内容は高専と同等もしくは以下であるが、英語で受け答えしなければならない。教員と学生の距離も近いようで、中等部の生徒たちも非常に人懐っこく、外国人を歓迎するムードがあり低学年の研修には非常に向いていると思う。以前は韓国の英南大学と交換留学していたが最近は途絶えており、日本の学校とのMOU締結、学生交流を期待している。



③私立大学エミリオ・アギナルド大学（幼稚園から一貫教育、レベルもフィリピン上位校）

JICAの頃知り合った成清が、UPを卒業して就職し、それをきっかけに現在の語学教育プログラムを創った。マニラの中心地にあり寮が小さいため、学校に隣接するホテル（パールマニラホテル）に中四国高専の学生達は宿泊しており、その一階にマンツーマンで20名程度がレッスンを受講できるスペースを借り、語学教師をパートタイムで雇い、授業を実施している。そのため直接学生同士が関わる機会は少ないが、アクティビティや授業の一環として、幼稚園を訪れ自己紹介や折り紙を一緒に折って遊んだり、学生との交流などもプログラムには盛り込まれていた。授業は夕方までで夕食と週末は自由行のため食事もお外食となる。その際、徒歩10分以内にマクドナルド、セブンイレブン等の飲食店が多数あり、やや離れているが徒歩圏内に大きなショッピングモールもある。しかしながらその周辺は決して治安が良いとは思えず、ホームレス、物乞い、スリ等が普通に見られ、海外に慣れている教職員でも緊急時に対応できるのか懸念される。このプログラムを継続するのであれば、成清なみの現地に慣れた引率教員をつけるか、治安対策をしないとおそらく問題がおこる可能性は否めない。



④ AMA コンピューター大学

AMA コンピューター大学も訪問したが、ロケーションの悪さと 学生のレベルが合わない ように思われるため現段階で検討は不要と判断した。



<セブ島> 9月1日～3日

セブはマニラに比べ治安の面で安心。タクシーも基本メーターを回し、人は笑顔で親切である。歓楽街も少なくタクシーで行く距離なので、学生の安全管理がしやすい。スラムもあるが、自分から近づかない限り危険にあうことはまずない。セブの大学で学内に語学学校を持っている大学は数少ない。セブで一番レベルが高いのはサンカルロス大学だが、立地が旧市街のやや治安に不安が残るエリアにあり、他大学とのMOUも多くNITとして協定の締結を希望するのであれば検討が必要であろう。また、これもまたマニラとの違いだが、付属の語学学校は大学の証明書を出す権利を持っている。しかし基本経営母体は別で、下記の2大学についても同じである。ただ他に認定書を出せる学校はまずなく、あとは民間の語学学校となるため、保護者への信頼を考えると下記二校が適当と思われる。MOUなしでも教職員研修のために協力先として検討する価値はあると考える。

⑤ USPF（南フィリピン大学）提携語学学校ニルス

原が2008年に現地で起ち上げた語学学校で、日本人向けの安全性とレッスンのカスタマイズを特徴としている。現在の経営者は、原の友人の千葉栄一氏である。

近くの公立の小学校に行き行うフィールドワークがあり、今回、天内はそのようなプログラムを高専教員用にカスタマイズし、教職員研修を実施したらどうか考えている。また学生・教職員向けの語学研修プログラム等をこちらの意向に沿ってカスタマイズすることが可能で、廉価な英語研修として非常に有力な候補である。



⑥ UV(ビサイヤ大学) 附属語学学校

医学系の小さな大学で救急病院が併設されている。日本人スタッフが在駐し、16週間のインターンシップコースがある。このプログラムでは、12週間英語を学び、最後の2週間はホテルで研修ができる。高専生にはあまり必要性はないかもしれない。



※マニラ・セブともに8月は台風シーズンなので、9月以降にプログラムを実施するのが最適であると思われる。

※セブは比較的安全であるが、いずれにしろ中四国コンソーシアムにおいて共通の安全管理体制の整備は必須である。